

ライフケアガーデン熱川 本館

症例概要 利用者：80代 女性 要介護2

病名：認知症、糖尿病、脂質異常症

伊豆出身、長年地域の小中学校で家庭科教師として勤める。結婚歴はなく遠方で暮らす姉妹とは疎遠であったため2010年に司法書士事務所と任意後見契約を結ぶ。2015年頃より物忘れなどの認知症状が出現するも受診等はしていなかった。

2022年10月頃より昼夜を問わず知人らに電話を掛けて回る等、認知機能低下が顕著となる。ケアマネジャーや後見人の介入を拒否し、自宅の衛生状態とご本人の栄養状態は日々悪化していた。

2025年6月、これ以上の在宅生活は不可能と判断した後見人から相談を受けたことで当施設入居となるも、帰宅願望を強く訴え職員に詰め寄る行動もみられた。

入居者さんの得意を活かした職員一丸の取組みによって、笑顔ある生活を送っていただけるようになった事例。

内 容

入居後、氏は目につく職員や他の入居者に声を掛け強い帰宅願望を訴える状態が続いていた。傾聴を行うも職員の言葉に耳を貸さず、拒否的な言動がみられ、面会に訪れた後見人に対して興奮して詰め寄る場面もあった。

職員は昼夜を問わず傾聴を重ね、ユマニチュードケアを実践する中で、「何をすればよいか分からない」という不安の訴えに着目した。役割や仕事を持つことで気持ちの安定につながるのではないかと考え、塗り絵や編み物、季節行事への参加などを提案するとともに、後見人から生活歴を詳しく聞き取った。

その結果、氏が都内の病院で栄養士として勤務し、伊豆へ戻ってからは家庭科教師として長年生徒に栄養学や食材の取り扱いについて教えていたことが分かった。そこで、ベランダの菜園管理と収穫を担ってもらうことを提案したところ、強い関心を示し、野菜の特徴や調理方法について職員に説明する場面もみられた。

菜園管理を始めてから不穏な言動は減少し、職員の声掛けを受け入れ、笑顔を見せる機会が増えた。状態の安定を受けたことで教え子や友人たちとの面会が叶い、友人と楽しそうに歌を歌うなど、明るい人柄がうかがえる時間を過ごすことができた。また、誕生日では職員からのお祝いに照れながらも笑顔で職員に感謝を伝えていた。

多職種がご入居者の生活歴や強みを共有し、役割を通じた関わりを協働で進めた結果、不穏の軽減だけでなく、笑顔ある生活を送っていただけるようになった本事例を、キラキラ介護賞に推薦する。

【多職種の関わり】

【看護】 ユマニチュードケアを実践してご入居者の不安軽減に努めるとともに、熱川温泉病院と連携し服薬管理を行う。併せてアロマケアを取り入れ、緊張の緩和を図った。

【介護】 ご入居者に役割や仕事、イベント参加を案内し生活意欲の向上を支援。施設管理とともに菜園管理を通じた継続的な関わりを行った。

【施設管理】 介護と連携し、季節ごとの作付けや収穫を計画。水分量や肥料の調整を行い、長期間楽しめるよう菜園環境の維持に努めた。

【食養】 収穫した野菜を活用し、介護とともにクッキングレクリエーションを実施。誕生日には好みに合わせた手作りケーキを提供し、食の楽しみを支えた。

【事務】 不穏軽減のため、後見人から情報を収集し生活歴を部署間で共有。教え子や友人との面会に際しては日程調整を行い、円滑な実施を支援した。